

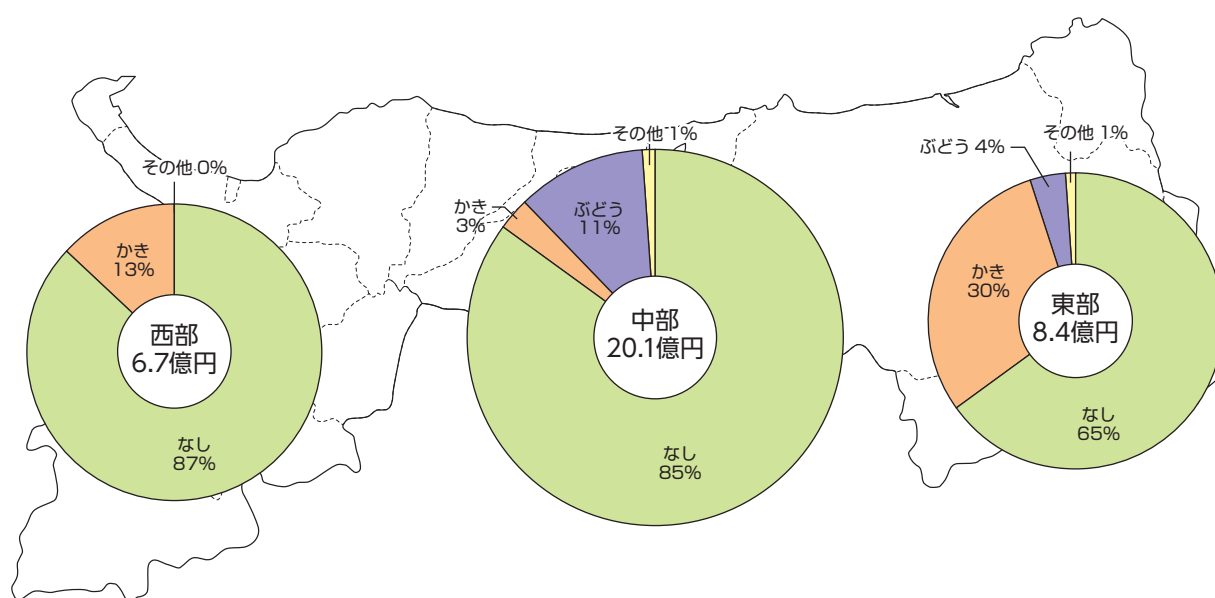
4 ^{くだもの} 果物づくりのさかんなところ

① ^{とっとりけん}鳥取県の果物づくりの^{とくしよく}特色

鳥取県では、それぞれの土地の^{とち}気候や^{きこう}地形などをいかして、いろいろな果物をつくっています。

鳥取県内の果物づくりのようすを地域別にはん売額で見ると、^{ちゅうぶ}中部地区が最も多く、果物づくりがさかんなことがわかります。

鳥取県の果物は、どの地域でもなしが最も多くさいばいされていますが、その他の果物は地域によってことなります。



鳥取県の地域別に見た果物のはん売額 [2022年/全農とっとり]

ひとことメモ

果物のいろいろ

果物とは、^{しょくよう}食用になる^{かじつ}果実のことで、本来、^{ほんらい}樹に^き実がなるものを果物といいます。一方、スーパーや市場では、イチゴ、メロン、スイカなどの^{あま}甘い^{やさい}実の野菜もふくめて^{くだもの}果物としてはん売されています。

なし



県内ほぼ全域でさいばい

ぶどう



北栄町，湯梨浜町を
中心にさいばい

かき



八頭町，南部町を
中心にさいばい

りんご



八頭町，大山町を
中心にさいばい

いちじく



北栄町，南部町で
さいばい

ブルーベリー



鳥取市，大山町を
中心にさいばい

最近では，なしの「新甘泉」や「なつひめ」，かきの「輝太郎」，ぶどうの「シャインマスカット」など，味のよい新しい品種がつくられるようになり，さいばい面積も毎年ふえています。



なし
「新甘泉」



なし
「なつひめ」



かき
「輝太郎」



ぶどう
「シャインマスカット」

②クローズアップ！^{くだもの}果物づくり

日本一の^{にじっせい}二十世紀なしの^{さんち}産地：鳥取県^{とっとりけん}

「二十世紀なし」は、鳥取県を代表する^{だいひょう}特産物です。日本全国どこでも「なし」と言えば「鳥取県」の名前があげられるほど有名です。鳥取県に初めて二十世紀なしが^{はじ}植えられたのは1904年（明治37年）で、鳥取市桂見の北脇^{かつらみ きたわき} 永治^{えいじ}という人が、10本の^{なえぎ}苗木を植えたのがはじまりです。

大きくておいしい二十世紀なしをつくるために、4月には^{じゅふんさぎょう}受粉作業、5月に^{てきか}摘果作業を行った後、なし専用の袋を2回かけて、大切に^みなしの実を^{そだ}育てます。

受粉作業は、なしづくりで最も^{だいじ}大事な作業で、この作業を行わなければ実がなりません。なし農家の^{のうか}皆さんは、花が^{みな}満開となるこの時期が最も^{じき}いそがしくなります。

なしの実が^{ちよっけい}直径1cmくらいになったら、その中から一番大きくなりそうな^{のこ}実だけを^{のこ}残して他の実をはさみで切り落とし（^{てきかさぎょう}摘果作業）、^{のこ}残った実^{のこ}に小さな袋をかけます。なしの実が直径4cmになると、少し大きい袋をかけて、なしの実を虫や^{びょうき}病気から^{まも}守ります。



はじめて鳥取県に植えられた
二十世紀なしの木

＜なしづくりの^{おも}主な作業＞



受粉（^{こうはい}交配）作業（4月）



摘果作業（5月）



^{こぶくろ}小袋かけ作業（5月）



^{おおぶくろ}大袋かけ作業（6月）

さきゅう 砂丘地に広がるぶどう畑 ^{ばたけ}

鳥取県中部を流れる天神川^{なが てんじん かりゅう}の下流に広がる砂丘地は、川から水を引き、スプリンクラーなどで水をやるしくみがある鳥取県最大のぶどう産地です。

最近^{さいきん}は、つぶの大きなぶどうの^{にんき}人気が高い^{きょうほう}ため、巨峰やピオーネ、^{みどりいろ}緑色で皮ごと^{かわ}食べる^{ひんしゅ}ことのできるシャインマスカットなどの品種のさいばいに力を入れています。

また、ビニールハウスでさいばいすることによって、^{おんど}温度を上げて、早くしゅうかくできるように工夫しています。

ふゆう さと なんぶ 富有の里 南部町

鳥取県西部の南部町では、かきのさいばいがさかんです。^{まいとしやく}毎年約200トンのかきが、^{おおさか こうべ}大阪・神戸などの大都市に出荷されるほか、タイにも^{ゆしゅつ}輸出されています。

南部町では、特に「富有」という品種のさいばいがさかんで、「富有の里」として全国に^{でん}せん伝し、^{ひら}楽しいかきのイベントが開かれています。



ぶどう「ピオーネ」



シャインマスカットのさいばいの様子



全国柿の種吹きとばし大会



富有かきのさいばいの様子